

PRAEVIDENTIA DAILY (1月17日)

昨日までの世界：豪ドルに焦点シフト

昨日は、豪ドルが豪雇用統計の予想比大幅悪化を受けて対米ドルで急落したことが特徴的だった。豪雇用統計では雇用者数が-2.26万人と増加するとの市場予想(+1.0万人)に反して減少したことが嫌気され、豪中長期債利回りの急低下と共に、対米ドルで0.89ドル台から一時0.8777ドルへ1%以上急落し昨年中の最安値を更新した。年内は追加利下げなしで据え置きとの見方が大勢だったが、利下げ派がやや勢いを増し、次回RBA会合の注目度が高まるだろう。

他方、ドル/円は東京時間に前日の回復基調が継続し一時104.92円へ続伸したが、先週の米雇用統計発表前の水準である105円回復には至らなかった。そしてNY時間入り後には、特段のファンダメンタルズ情報はない中で米長期債利回りが低下に向かったことから、ドル/円もつれて反落、一時104.15円と104円割れ寸前まで軟化した。やはり、上昇基調が再開し105円を回復するには1月分米雇用統計で悪かった12月分が上方修正されたり、1月分が再び20万人程度の増加を回復することが必要なのかもしれない。この間、米経済指標はまちまちで、新規失業保険申請件数が32.6万人と市場予想を僅かに下回り減少トレンド回復を裏付け、またフィラデルフィア連銀製造業サーベイは9.4と市場予想を上回り、NY連銀分と並んで改善するなど良好なものが目立った一方、NAHB住宅市場指数が56と前月および市場予想(58)を下回った。米コアCPI前年比は+1.7%で前月および市場予想通りとなった。

その他、欧州通貨は横ばい圏内の動きで、ユーロ/ドルは1.36ドル丁度を挟んだ動き、他方でポンド/ドルはRICS住宅価格サーベイが56と予想外の悪化となったことから頭重く推移、一時1.6315ドルへ軟化し今週入り後の軟調が継続している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.2	-0.01	-0.01	+0.00	-0.06	-0.05	+0.01	-0.1	-0.4	-0.0	-0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.03	-0.04	-0.01	+0.00	-0.05	-0.05	-0.4	-0.1	-0.6	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.01	-0.01	-0.01	-0.00	-0.05	-0.05	-0.1	-0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-1.1	-0.07	-0.08	-0.01	-0.01	-0.06	-0.05	-0.1	+0.0	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.01	+0.00	-0.01	+0.01	-0.04	-0.05	-0.1	+0.0	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.02	-0.01	-0.03	+0.00	-0.05	-0.05	-0.1	-0.0	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

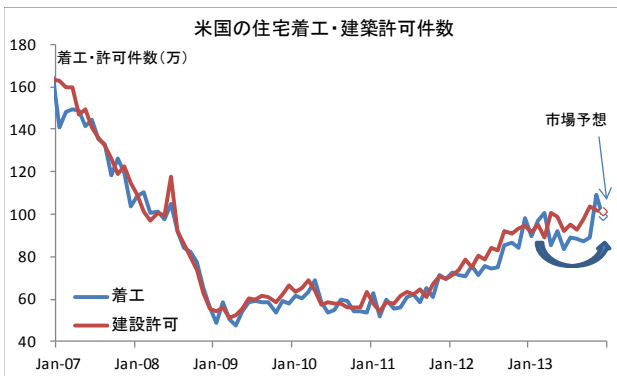
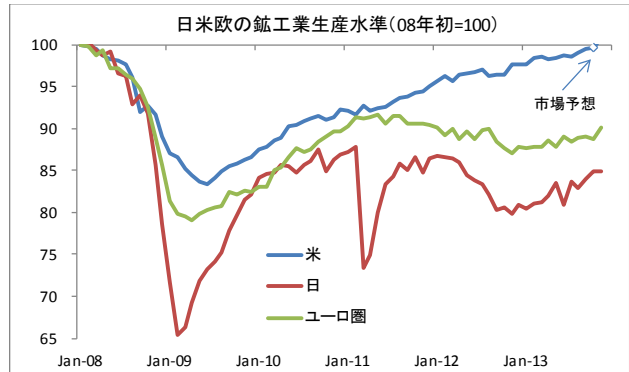
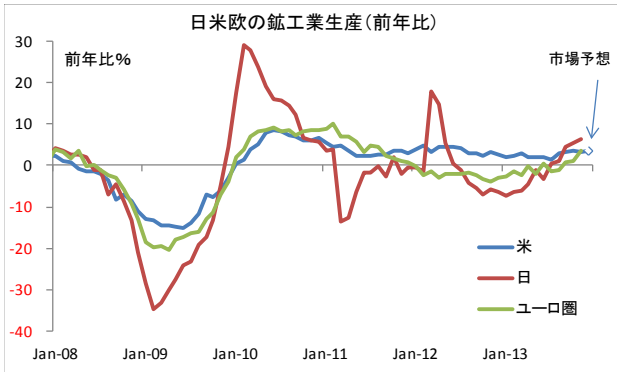
きょうの高慢な偏見：上値追いは失敗だが底固めへ

本日の相場材料としては、①英12月小売売上高(18:30、除く自動車燃料：前月+0.4%、市場予想+0.3%、前月比)、②Broadbent・BoE金融政策委員発言(21:15、ハト派)、③米12月住宅着工件数(22:30、前月109.1万件、市場予想+99.0万件)、④米12月建設許可件数(22:30前月101.7万件、市場予想101.2万件)、⑤米12月鉱工業生産(23:15、前月+1.1%、市場予想+0.3%)、⑥米1月ミシガン大消費者信頼感(23:55、前月82.5、市場予想83.5)、⑦Lackerリッチモンド連銀総裁発言(2:30、タカ派、投票権なし)、などが予定されている。

ドル/円は雇用統計前の水準である105円丁度近辺を目前にして、概ね良好な経済指標発表が続いたにも拘らず失速した感があり、本日発表の住宅着工、鉱工業生産や消費者信頼感指数では105円上抜け再トライは難しいだろう。但し下値の堅さを確認するという意味では引き続きこれらの米経済指標は注目度、特に経済全体の循

環と連動性が高いとされる鉱工業生産、および米景気回復の牽引役だった住宅関連計数が注目される。

鉱工業生産では、12月の悪天候を受けて市場予想を下振れたり前月比マイナスとならないかが注目され、市場予想程度に留まればドル下値の堅さを確認することとなる。鉱工業生産について、米国は前年比の伸び率では日本やユーロ圏に劣ってきているものの、リーマンショック前の水準との比較で言えば回復度が最も強い（下図を参照）。住宅着工、建設許可件数では、12月の悪天候が悪影響を及ぼした可能性を考慮すると、トレンドを見る上では天候の影響を受けにくいとされる建設許可件数の方が注目されるだろう。着工、建設許可件数のいずれも前月から減少が予想されているが、建設許可件数の減少は小幅に留まる見込みで、市場予想を大きく下振れなければ昨年9月以降の持ち直し基調を確認することとなり、こちらもドル下支え要因となる（下図を参照）。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641